

県教委が進めていた、第十四次「土佐国衙（こくが）跡確認調査」が終わり十一月十三日、現地説明会が行われました。今回回の発掘で、最も有力とされていた内日吉地区には、政庁の存在を予想することは難しいという結論に達しました。

内日吉には、政庁確認されず

◇第14次国衙跡 発掘調査◇

調査は十月一日から始まり、比
江内日吉二ノ坪の四百一十四平方
メートルを発掘。
出土遺物は約一万点。杯、甕か
めーなどの土師質（はじしつ）土
器や須恵器、青磁など。遺構は
一棟の堅穴住居跡、五棟の掘立柱
建物跡など。



官衙に付随する健物跡が発見された内日吉の現地

堅穴住居跡は、出土遺物が少な
くはつきりした時期はわかりませ
んが、この付近には六世紀末から
七世紀初頭の住居址があることが
ら、その時期（古墳時代）のもの
で、国衙ができる前にできたもの
と思われています。

五棟の掘立柱建物跡は、その柱
穴がすべて方形の幅り方で、規模
からみても、官衙に付随する建物
跡と推定され、うち四棟は、棟方
前殿、後殿、東西の脇殿によって
構成されています。

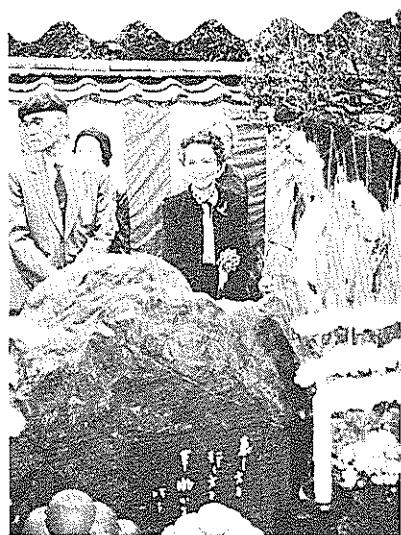
今までの調査で、内日吉地区で
十五棟の官衙に付随する建物跡を
確認しましたが、政庁内の建物と
するには規模的に小さく、むしろ

前殿、後殿、東西の脇殿によって
構成されています。

今までの調査で、内日吉地区で
十五棟の官衙に付隨する建物跡を
確認しましたが、政庁内の建物と
するには規模的に小さく、むしろ

国分寺に○○○

高木さん（虚子）の句碑完成



完成した句碑を見る高木晴子
さん（写真中央）

薄もやのこもる四國靈場二十九
番札所国分寺（林宏祐住職）で十
月十一日、高浜虚子の五女高木
晴子さんの句碑が完成、高木さん
を迎え、俳人など百二十人が参加
し盛大に除幕式が行われました。

高木さんは、神奈川県鎌倉市に
住む俳人で、昭和五十三年から遍
路の旅など三度国分寺を訪れるう
ち、国分を心のふるさと感じら
れ、そんな縁で虚子が愛用してい
た鼓を国分寺へ贈り、虚子と、い
と夫人の永代供養を依頼しました。
そんな高木さんの気持ちを長く記
念しようと、句碑建立となつたも
の。

薄もやのこもる四國靈場二十九
番札所国分寺（林宏祐住職）で十
月十一日、高浜虚子の五女高木
晴子さんの句碑が完成、高木さん
を迎え、俳人など百二十人が参加
し盛大に除幕式が行われました。

高木さんは、神奈川県鎌倉市に
住む俳人で、昭和五十三年から遍
路の旅など三度国分寺を訪れるう
ち、国分を心のふるさと感じら
れ、そんな縁で虚子が愛用してい
た鼓を国分寺へ贈り、虚子と、い
と夫人の永代供養を依頼しました。
そんな高木さんの気持ちを長く記
念しようと、句碑建立となつたも
の。

碑が二つとなりました。

式では、林住職らが法要を行
い、中沢秀夫県教育長、小笠原
市長らの祝辞の後、高木さんが「皆
さんと、暖かい交わりができるこ
の幸せは、父が与えてくれたもの
だと思います」と、感謝の言葉を述べ
ていました。

午後からは記念俳句会が開かれ、
集まつた人たちは、こけの美しい
庭で、俳句を楽しんでいました。